



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2025～2026 年度 高山中央 RC 会長テーマ

親睦・学び・成長・奉仕 ～地区と地域の未来を考えて～

よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary

◆会長 都竹 太志 ◆幹事 井ノ下 雄志 ◆会報委員長 今井 哲也 ◆会報担当 三枝 祥一

創立 1991 年 5 月 20 日

<出席報告>

◇事務局 高山市本町1ー2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1407 回	56 名	56 名	41 名	——	73.21%
前々回 1405 回	56 名	56 名	43 名	2 名	80.36%

●点 鐘

●ロータリーソング

それでこそロータリー

●高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●ビジター・ゲストの紹介

●会長の時間 会長 都竹 太志

皆さん、本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、少し前の新聞に、平均寿命に関する記事が掲載されていましたが、高齢者にまつわる少し真面目なお話をさせていただきます。



皆さんは、日本の人口ピラミッドをご覧になったことがあると思いますが、もはや、「ピラミッド」ではなく、「つぼ型」あるいは「逆三角形」と言われるほどに、高齢者の比率が高まっています。2025年には「団塊の世代」がすべて後期高齢者となり、今月14日の総務省公表の人口推計によりますと人口の約3割、29.4%が65歳以上という「超高齢社会」に突入します。また、今回の発表ではありませんが、日本は相変わらずの長寿国で、2024年の平均寿命のデータでは、女性は約87.13歳で40年連続世界第1位、男性は約81.09歳で5位ということでした。一方で、15歳未満の子供の割合は、12%を切り、過去最低を更新し続けています。このように、子供が減り、高齢者が増える「いびつな人口分布」は医療・介護・社会保障だけに限らず、あらゆる事に様々な課題を生み出します。

その象徴的な問題の一つが、「寝たきり高齢者」の増加です。日本は”寝たきり大国”とも呼ばれており、ある調査によれば、生活のほとんどすべてに介助が必要な「要介護5」の高齢者が100万人以上も存在するといわれています。その多くが、意識の薄れた状態で長期間ベッド上にある例は少なくあ

りません。

一方、欧米、とりわけ北欧諸国やオランダなどでは、そもそも「寝たきり高齢者」という概念がほとんど存在しません。人生の最期をどのように迎えるかは個人の尊厳の一部とされ、「延命よりも尊厳のある死」が選ばれています。

この違いは、一体どこから来るのでしょうか。大きな理由の一つに、「医療の文化」と「家族観の変化」があります。欧米では、「人生の最期は自然に、穏やかに迎えるべき」という考え方が一般的で、過剰な延命治療を避けることが尊重されています。対して日本では、かつては家族が高齢の親を看取り、最期をともしることが一般的でした。しかし、核家族化が進み、都市部では“看取る人”がいない家庭も増えています。また、医療現場では、「少しでも長く生かすこと」が医療の使命とされ、点滴や経管栄養といった治療が、本人の意思に関係なく、本人の意思が確認できないまま、「脱水になると困るから」と大量の点滴が行われたり、「栄養が足りないから」と胃ろうが作られたりする現実があります。しかし、このような治療が、結果として苦しみを長引かせてしまうこともあります。ある医師は、この状況を「水分で溺れ、栄養で衰弱していく」と表現しています。

これは、家族にとっても非常につらい現実です。愛する人が、意志表示もできず、ただベッドの上で苦しみ続ける姿を見ることは、誰にとっても望ましいことではありません。

では、どうすれば「寝たきり」ではない、穏やかな最期を迎えることができるのでしょうか。

日本では、「死について語ることは縁起でもない」とされる文化的な背景もあり、事前に本人の意思を確認する「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」という考え方がなかなか浸透していないのが現状です。これは、もし自分が意思決定できない状況になったときに備えて、どのような医療を望むのか、

誰に判断を託すのかを、あらかじめ話し合っておくという取り組みです。

欧米では、この ACP が広く浸透していますが、日本ではまだ十分に普及しているとはいえません。確かに、人は「死」について語るのを避がちです。しかし、高齢化が進む日本において、もはや「どう生きるか」「医療で何ができるか」ではなく、「どのように生き、どのように死にたいか」をひとり一人が考えることが求められますし、これも、豊かな人生の一部だと私は思います。

また、医療の現場だけでなく、私たち地域社会や家庭の中でも、「穏やかに見送る」という文化を育てていくことが重要です。介護職・医療職の皆さんと協力し、「延命」だけを目的としない、“その人らしい最期”を支える仕組みを、私たち自身が作っていく必要があると感じています。

もちろん、これは簡単なことではありません。自分の最期を語るのは怖いものですし、親に「延命治療をどうするか」などと尋ねるのも気が引けるものです。しかし、話し合わないまましていると、いざというときに判断は医療側や第三者に委ねられ、結果として「望まぬ最期」を迎えるリスクが高まります。

ロータリーの理念「超我の奉仕」は、社会への貢献を意味するだけでなく、「他者の尊厳を守る」ことにも通じる考え方です。高齢者の尊厳を守ること、そして子や孫の世代に無理のない社会を手渡すこと。その両方のバランスを考えながら、私たちはこの“いびつな人口構造”と向き合っていく必要があります。

今後さらに高齢化が進んでいく日本において「寝たきりを生まない医療」「その人らしい最期を支える地域」「死を語り合える文化」を育てていくこと。それは、少子化時代を生きる若い世代に対しても、希望ある未来をつくる大きな一歩になると、私は信じています。

本日は少し重いテーマとなりましたが、ぜひこの話が、皆さまご自身やご家族、そして周囲と方との会話のきっかけになれば幸いです。

ご清聴、ありがとうございました。

●幹事報告 幹事 井ノ下 雄志

◎国際ロータリー第 2630 地区
ガバナー事務所より

・DEI 推進セミナー開催
のご案内

日時：11 月 24 日（月・祝）
13：00～

会場：ホテルグランヴェール
岐山

登録料：4,000 円



○ロータリー米山記念奨学会より

・10 月米山月間資料（豆辞典・寄付マニュアル・事業報告・決算報告・親善大使チラシ・学友の群像等）

○高山ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

10 月 6 日（木）休会

10 月 23 日（木）⇒26 日（日）ひだホテルプラザ
濃飛グループ IM

10 月 30 日（木）休会

○高山西ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

10 月 10 日（金）⇒4 日（土）

台北東海 RC 歓迎例会 洲さき

10 月 17 日（金）⇒5 日（日）

60 周年記念式典祝賀会 高山グリーンホテル

10 月 24 日（金）⇒26 日（日）

濃飛グループ IM ひだホテルプラザ

<高山市青少年育成市民会議より>

・「家族スナップ写真展」作品募集について

<飛騨高山国際協会より>

・ルーマニア・シビウ市からのボランティア訪問団
について

<会報>

・高山西 RC

●会員 3 分間スピーチ



●会報/雑誌委員会 委員長 水口 邦博

9 月は「ロータリーの友月間」
です。

国際ロータリー (RI) 理事会が
2015-16 年度から特別月間を
大きく変更したことに伴い、従
来 4 月に設定されていた雑誌
月間はなくなりました。

そこでロータリーの友委員会・



理事会の決定で、9月を「ロータリーの友月間」として新設しました。

日本独自の特別月間として、『友』を推進し、『友』の利用法について話し合います。

ロータリアンの視野を広める 『ロータリーの友』
基本的にはロータリアンのための機関・情報誌です。

横組みのページには、RI の指定記事、ロータリーの特別月間の関連記事、特集、地区やクラブの活動などを掲載しています。

縦組みのページにはロータリアン個人としての意見や経験談、エッセー、俳句や短歌・川柳の投稿、講演録などを掲載しています。

会員歴の浅い方や、ロータリアン以外の方がお読みになっても、ロータリーの理念や活動がお分かりいただけるよう編集しています。同時に、生活に役立つ情報、社会の話題を取り上げることで、内容の充実を図っています。

『ロータリーの友』 の役割

『友』は国際ロータリー (RI) の機関雑誌です
ロータリアンには国際ロータリー (R I) が認可したロータリーの雑誌の購読義務があります。

日本のロータリアンは、アメリカ本部で発行している ROTARY 誌もしくは、ロータリーの友を購読することになっています。

R I の認可を受けるための条件の一部を紹介します。

国際ロータリー (R I) に認可を受けるために (一部)

- ①RI が指定した記事を掲載すること
- ②国際ロータリーの方針を伝えること
- ③年に 6 回以上発行すること (少なくとも各号 24 ページ以上)
- ④雑誌の内容の 50%はロータリーに関係した記事であること
- ⑤読者が印刷媒体か電子媒体を選択できること
- ⑥RI の資金援助を受けずに、経済的に自立すること

『ロータリーの友』には、ロータリーに関するさまざまな情報が掲載されています。

『ロータリーの友』はロータリアンの活動や意見からなる雑誌です。

『ロータリーの友』を読み、『ロータリーの友』をご活用ください。

また、奉仕活動をされたら『ロータリーの友』に、ご原稿とお写真をお送りください。

より良い『ロータリーの友』にするために、皆さまのご協力をお願いいたします。

最後に

「ロータリーの目的」を推進し、ロータリアンの親睦を育む役に立つ雑誌を目指します。

今後とも、ご講読、ご愛読をよろしく願います。

< ニコニコ BOX >

昨日の高山 6 クラブゴルフコンペで飛び賞を頂きました。ありがとうございました。

都竹 太志

本日、所用により早退させていただきます。

申し訳ありません。

高橋 厚生